

研究課題番号：3K152007

課題名： 指定管理鳥獣の放置要件に関する研究

研究代表者名：堀野眞一

所属： 国立研究開発法人 森林総合研究所

研究実施期間：27～28年度

累積予算額：12902千円

# 研究体制

堀野眞一(国立研究開発法人 森林総合研究所)  
代表, シカ放置実験, アンケート

永田純子(国立研究開発法人 森林総合研究所)  
シカ放置実験

末吉昌宏(国立研究開発法人 森林総合研究所 九州支所)  
シカ放置実験(昆虫)

# シカ捕獲推進の課題（研究の背景）

環境省・農林水産省「**抜本的な鳥獣捕獲強化対策**」

本州以南のシカ約261万頭を10年以内に半減

➡ **捕獲個体の処理が制約要因に**

「鳥獣保護管理法」第十八条

鳥獣の放置等の禁止

捕獲個体の森林外への**搬出**、**埋設**、**焼却**

**第十八条の特例を規定**

捕獲等をした鳥獣を当該捕獲等をした場所に放置することが、生態系に重大な影響を及ぼすおそれがなく、かつ、指定管理鳥獣捕獲等事業の実施に当たって特に必要があると認められる場合として環境省令で定める場合に該当するとき。

しかし、

**放置を可能とする要件とは？**

# 研究開発目的

## 生態系への影響

周辺の生物への影響  
臭いや水質への影響  
遺体分解過程

## 危険防止と合意

関係者  
土地所有(管理)者  
地域住民  
安全  
衛生

に基づく放置可能要件

# 実験現場

森林  
栃木県塩谷町  
コナラ林  
標高660m  
実験ごとにシカ6頭

草地  
栃木県矢板市  
ススキ原  
標高540m  
実験ごとにシカ6頭

# 観察



直接観察



シカ1頭につき自動カメラ2台

# ハエ類の調査



飛来するハエ類を捕虫網で捕獲



発生するハエ類を羽化トラップで捕獲

# 甲虫類の調査



ピットフォールトラップ



捕獲された地上歩行性の腐肉食性甲虫類



# 実験結果(冬の例)

12月2日



12月3日



12月4日



12月5日



12月6日



12月7日



12月8日



12月9日



12月10日



12月11日



12月17日



12月24日



12月31日



1月7日



1月13日



2月15日



# 実験結果(夏の例)





# 遺体に来た動物



45°F ● 2015.12.04 18:58:23

61°F ● 2016.07.25 02:05:14

イノシシ

ツキノワグマ

# 遺体に来た動物



キツネ

タヌキ

この他に, テン, ハクビシン

# 遺体に来た動物



カラス, トビ



クマタカ

# 遺体に来た動物



ホホグロオビキンバエ(卵)

ホホグロオビキンバエ(幼虫)

# 遺体に来た動物



スズメバチ



シテムシ



# アンケート

## 対象

林野庁職員，森林組合従業員

## 設問

シカに対する基本的な立場・認識 1問(複数回答可)

シカ死体に対する態度・意見 4問

シカ死体に集まる動物についての意見 6問

シカ被害と行政による対策への知識・認識 6問

回答者自身に関する質問 7問(一部は複数回答可)

# アンケート結果

## アンケート結果の抜粋

問: 山でシカの死体を見たらどうするでしょうか？

答: 「そのまま通り過ぎる」が多く, 「近づいてよく見る」が次ぐ.

問: 最もいやだと思うシカ死体は？

答: 「腐敗した死体」が最も多く, 「一部が動物や昆虫に食われた死体」が次ぐ.


問: 上の理由は？

答: 「臭いから」や「気持ち悪いから」が多い.

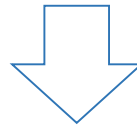
# 成果と活用

放置実験結果 シカ死体の分解過程  
分解に関与した動物  
臭気の発生  
など

アンケート結果 シカに対する考え方  
シカ死体に対する感じ方  
など



「ガイドライン」



行政(シカ捕獲個体放置の許可を判断する自治体等)